

## 韓国

### マクロ経済動向

5月に発表された2002年第1四半期のGDP成長率は、季節調整値で前期比1.8%（年率換算7.4%）の高い伸びを記録した。需要項目別に見ると、固定資本形成が前期比4.5%、最終消費支出が同2.6%となっており、内需の両輪が力強い回復を示している。

製造業生産指数は今年3月に前年同月比4.2%となり、その後4月7.4%、5月7.8%と高い伸びを続けている。また失業率は5月には季節調整値で3.1%となっており、年初以来3%前後で安定している。

こうした予想を上回る急速な景気の回復を受けて、韓国銀行（中央銀行）は7月4日発表の下半期経済見通しで今年のGDP成長率をこれまでの5.7%から6.5%に上方修正した。また財政経済部も今年の成長率を6%台に修正している。

民間研究機関の多くも同様に6%台の成長予測を公表している。しかし一方で三星経済研究所のように、上半期の過度の消費の高まりが下半期の落ち込みを招く危険性を指摘する論調も見られる。外需依存度の高い韓国経済においては、内需主導型の成長は必ずしも安定的なものとは見なされていないようである。いずれにせよ今後は、景気の過熱を抑え成長を持続させるために、金利上げを含む財政金融政策の慎重な舵取りが求められよう。

### ワールドカップの経済効果

6月にアジアで初めて、日韓共同開催のFIFAワールドカップが開催された。今大会は史上初めての二カ国共同開催であり、複雑な歴史的経緯を持つ両国にとって、その成功は将来への大きなステップと位置付けることができよう。以下では同大会の韓国経済へのインパクトについて概

観したい。

現代経済研究院はワールドカップの経済効果について試算結果を公表している。これによれば、競技場、周辺道路などの建設投資の効果は付加価値額が3兆6,023億ウォン、雇用創出が18.5万名としている。大会の開催により発生した効果は、消費支出の増加が決勝トーナメント分だけで3兆7,600億ウォン、国家ブランドの広報効果が7兆7,000億ウォン、韓国企業のイメージアップ効果が14兆6,600億ウォン、合計で約26兆ウォンと推計している。これは韓国のGDPの約5%に相当する数字である<sup>1</sup>。

個別企業で見ると、大会の公式スポンサーとなったKT（旧韓国通信）は自社の広告効果を5兆ウォンと見込んでいる。同じく公式スポンサーの現代自動車は広告効果を10兆ウォン以上と見込んでおり、また日本における同社ブランドの認知度が2月時点の32%から6月には67%まで上昇したとしている。

しかしこれらの広報効果については、それが実現するのは今後の企業活動に懸かっているとの指摘もなされている。一例を上げれば、現代自動車は日本で大会の入場券を景品につかったキャンペーンを行い、5月の販売台数を前年同月比で6.6倍としたが、台数は未だ392台に過ぎない。認知度の向上をシェア拡大に結び付けるには、さらなる努力が不可欠といえよう。

一方でワールドカップ開催のマイナスの影響もいくつか指摘されている。産業資源部は6月の輸出額が前年同月並に止まった原因の一つとして、電子、自動車などの輸出産業で、大会期間中の作業効率の低下したことを上げている。政府は決勝戦翌日の7月1日を休日としたが、これについては財界から批判も出た。また関連道路等を含め、2兆3,000億ウォンを投入して建設した施設を、今後地方自治体が有効活用できるか懸念する意見も出されている。

（ERINA調査研究部研究主任 中島朋義）

	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	01年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	02年1-3月	2002年3月	4月	5月
国内総生産（%）	5.0	6.7	10.9	9.3	3.0	1.2	0.3	1.3	1.6	1.8	-	-	-
最終消費支出（%）	3.2	9.8	9.4	6.7	3.7	0.5	2.5	0.8	1.8	2.6	-	-	-
固定資本形成（%）	2.2	21.2	3.7	11.4	1.7	2.0	1.5	0.0	3.3	4.5	-	-	-
製造業生産指数（%）	4.5	6.6	25.0	17.1	1.5	4.9	1.4	-2.2	2.0	3.7	4.2	7.4	7.8
失業率（%）	2.6	6.8	6.3	4.1	3.7	4.2	3.7	3.5	3.4	3.0	2.9	3.1	3.1
貿易収支（百万USドル）	3,179	41,627	28,371	16,872	13,392	3,460	5,100	2,985	2,173	3,265	1,947	1,134	1,533
輸出（百万USドル）	136,164	132,313	143,686	172,268	150,439	40,124	38,369	35,632	38,360	35,703	13,278	13,236	14,343
輸入（百万USドル）	144,616	93,282	119,752	160,481	141,098	38,115	34,497	34,154	33,982	33,693	11,907	12,541	12,719
為替レート（ウォン/USドル）	951	1,399	1,190	1,131	1,291	1,271	1,306	1,294	1,293	1,320	1,323	1,319	1,266
生産者物価（%）	3.9	12.2	2.1	2.0	1.9	2.5	3.2	2.0	0.0	0.2	0.0	0.7	1.5
消費者物価（%）	4.4	7.5	0.8	2.3	4.1	3.7	5.0	4.2	3.3	2.5	2.3	2.5	3.0
株価指数（1980.1.4 = 100）	655	406	807	734	573	574	578	542	598	793	865	894	842

（注）失業率は水準、製造業生産指数、生産者物価、消費者物価は前年同期比伸び率、その他のパーセンテージ表示系列は前期比伸び率  
国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、失業率は季節調整値  
生産者物価は1995年基準、消費者物価は2000年基準  
貿易収支はIMF方式、輸出入は通関ベース  
（出所）韓国銀行、国家統計庁他

<sup>1</sup> ただし試算の内容を見ると、「決勝トーナメントで1勝すると全国民の消費支出が1日分増加」、「企業認知度を1%向上させるのに必要な費用は1億ドル」といった大雑把な仮定が多く用いられており、あくまでも腰だめの数字と理解すべきだろう。